

2020年5月11日(月)

外国語活動 I

講義内容 第2章

第二言語習得に関する知識と外国語教育実践への応用

この章では、第二言語習得に関する基礎的な事項を学びます。中高の英語教員免許取得を目指す学生には「言語習得研究」という科目をかなり深く学ぶことが求められています。小学校で教える場合は、せめて基礎的なことは身に付けておかなければなりません。

たとえば、外科医になる人にとっても、また、内科医になる人にとっても、まずは「生命の維持のメカニズム」を知っている必要があります。どのような状況に陥った時に人は生命を維持することができないのか、というような基礎的なことが分からなければなりません。それが分からずに手術をすることは不可能です。同じように、外国語を指導する教師にとっては、第二言語がどのように習得されていくのかという基礎的な理屈を分かっていないと学習者の学習効果を上げることができません。そればかりではなく、外国語を学ぶことに否定的な考えを持つ学習者を作ってしまうことにもなりかねません。

第二言語習得の理屈を知っていれば、自分が教室で行っている活動が果たして意味のあるものなのか、言語習得に繋がるものであるのかが分かります。ただ、何となくやっていることは、実は何の効果もないかもしれないのです。ですから、この章は特に重要なところと私は考えています。

幸いなことに村野井のテキストは大変複雑で多岐にわたる言語習得研究分野を分かりやすく、かつ簡潔にまとめてくれています。しっかりと読み込んで欲しいと思います。

1. 第二言語習得とは何か

☞ 第二言語と母語は習得のしかたが同じなのか、異なるのか？

☞ 外国語と第二言語

☞ TESOL と TEFL の違いは？

(1) インプットの役割

① 理解可能なインプット

☞ 英語のラジオを聞き流しているだけで英語は習得できるのか？

☞ 字幕付き（もしくは字幕なしの）外国語の映画を見ることを通して外国語の習得は可能か？

☞ 小学校の外国語で指導者として担任が求められているのはなぜか？

② 形・意味・機能の繋がりを理解する。

☞ 学習指導要領で繰り返される「目的・場面・状況」を設定して英語を教える必要があるというのはどういうことか？

③ インプットに触れる頻度

☞ 小学校で Small Talk が導入された意味はどこにあるのか？

☞ 「外国語活動・外国語研修ガイドブック」(文部科学省)に Small Talk の定義が書いています。「ガイドブック」は私の HP にも up しています。もちろん文科省の HP にもあります。ぜひ、参照してください。自分でどんどん研究してくださいね。

(2) インタラクションの役割

☞ 新しい学習指導要領では「やり取り」が新たな領域として加わりました。

聞く、話す[発表], 話す[やり取り], 読む, 書く 4 領域から 5 領域へと変わりました。

話す[やり取り]が、話す[発表]と区別されたのはどうしてでしょうか？言語習得にとって「やり取り」はどんな意味や意義があるのでしょうか？

① 意味交渉

② 仮説検証

☞ なぜペア活動を行う必要があるのか？

☞ 幼児は母親だけから母語を学ぶのでしょうか？幼児どうしても言葉を学んでいくのでしょうか？

(3) アウトプットの役割

☞ なぜ発話を促す必要があるのか？

☞ なぜ発表活動をさせるのか？

☞ 小学校で Small Talk が導入された意味はどこにあるのか？ → 「外国語活動・外国語研修ガイドブック」

① 言語知識の自動化

② 弱点の気付きと文法の意識化 自分の穴に気付く

(4) 中間言語システム

☞ I goed to Tokyo. という発話はなぜ出てくるのか？

1.2 社会文化的アプローチから見た第二言語習得

(1) 対話の役割と最近接発達領域(ZDP)

(2) ダイナミック・アセスメント

(3) アフォーダンスと第二言語習得

2 第二言語習得における個人差

☞同じ植物なら、同じような肥料や水を与えれば、同じような成長を遂げる。豊かに実った稲田やサトウキビ畑を見るとそう思う。しかし、同じように教室で学んでも、人間の場合は同じようには育たない。なぜか？

2. 1 動機づけ

(1) 内発的動機付けと自律性

☞内発的動機づけとは？

☞外発的動機づけとは？

☞私自身の経験で大学に入学して何が楽しかったかと言えば、自分が学びたいことが学べたこと。高校までは自分が選んで何かを学ぶということはほとんどなかった。大学では自分が学びたいことを学べた！言語学習もそれと同じようなことが言えるか？

①自律性

②有能性

③関係性

(2) 理想的第二言語自己

☞私の個人的な体験では、中学校の英語の先生が外国人の先生と堂々と英語を話しているのを見た時に、自分もあのように英語を使えるようになりたいと強く思ったものである。

☞小学校で運動会や学習発表会を1年生から6年生までの全校でやるのは、どんな意味があるのか？

2. 2 性格

☞外国語の学習に向いている性格はあるのか？

2. 3 認知スタイル

☞同じことを聞いても、捉え方に差があるのはなぜか？

2. 4 外国語学習ストラテジー

☞書いて覚えるタイプと読んで覚えるタイプの学習者がいるようです。あなたはどちらですか？

☞新しい学習評価では「主体的に学習に取り組む態度」として「意欲」に加えて「自己調整能力」ということが言われるようになりました。なぜ、「自己調整能力」が重要なのでしょうか？

2. 5 年齢

(1) 言語獲得の臨界期

(2) バルセロナ年齢要因プロジェクト

☞ 学習開始年齢だけではなんとも言えない

☞ 年齢は一つの要因ではあるが、全ての技能に当てはまるものではない。「聞く」「話す」に与える影響と「読む」「書く」に与える影響は異なっている。

☞ ネイティブレベルの英語力を身に付けることを目標とする場合は年齢が大きな影響を与えそうです。しかし必ずしもネイティブレベルではないとしたら・・・

3 第二言語指導の効果についての研究

3. 1 意味重視の言語活動

3. 2 フォーカスオンフォーム

3. 3 タスクの活用